

朝鮮半島の非核化、北東アジアの平和へ前進

歴史的な南北首脳会談と板門店宣言

長い分断と対立から
平和繁栄の関係へ



4月27日、韓国のムン・ジェイン大統領と北朝鮮のキム・ジョンウン国務委員長が、朝鮮戦争の休戦協定が65年前にむすばれた板門店で会談しました。

会談後に発表された共同宣言「板門店宣言」は、今年中に朝鮮戦争を終わらせることを打ち出し、朝鮮半島を「完全に非核化」すると

しました。南北朝鮮がともに、ただちに、軍事的緊張を緩和する行動をとることも決められました。

昨年、北朝鮮の核・ミサイル開発をめぐって軍事的緊張が高まっただけに、朝鮮戦争終戦と朝鮮半島の非核化で合意できたことは、アジアと世界の平和にとって大変重要です。5月末から6月にかけて開かれる米朝首脳会談も成功が期待できます。

日本は被爆国として ふさわしい役割を

残念ながら、日本政府は今回の対話の流れに貢献したとはいえません。安倍首相がムン・ジェイン大統領に「ピョンチャンオリンピック後の米韓合同軍事演習を延期すべきではない」ともとめるなど、圧力一辺倒の対応でした。

朝鮮半島から核兵器をなくし、本当の平和をつくるには、アメリカ、中国、ロシアなど核保有国も、その核兵器を放棄すべきです。昨年7月に国連で採択された核兵器禁止条約に、アジアの国々はみな入るべきです。

被爆国日本が、そのイニシアチブをとるべきではないでしょうか。私たちがとりくんでいる「ヒバクシヤ国際署名」は、韓国人の方も含むヒバクシヤのよびかけで、すべての国の政府に核兵器を禁止し廃絶する条約に入るよう求めています。ぜひ署名にご協力ください。



(2018.5.6)

国連認証 NGO・原水爆禁止日本協議会(日本原水協)

Tel:03-5842-6031 HP:<http://www.antiatom.org/>